

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400122		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター豊岡の森		
所在地	兵庫県豊岡市九日市上町10番地		
自己評価作成日	平成24年5月8日	評価結果市町村受理日	平成24年7月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年5月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事(調理、掃除、洗濯、裁縫など)、菜園作業、雪かき、庭掃除などの日常生活上の作業において、各入居者の能力や嗜好に応じて、出来る事をどんどんして頂く、そうする事で、充足感や達成感を感じて頂けるよう支援しています。
 入居されてからも、ご家族との関係が保たれるよう努めています。日々の面会支援に留まらず、日常生活における大小様々な問題について、ご家族の意向・意見を伺いながら、より良い支援に繋げています。また、「サービス提供者」としてもご家族にも参加して頂き、ともに支援する姿勢で取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年を迎え、利用者の方々安心して安全を感じられるケアを提供しようと日々努めている。畑仕事や雪かき、家事等を通して、利用者のこれまでの生活の知恵を生かせる場所作りを行っており、職員からの一方的なケアの提供ではなく、利用者と職員が相互に支えあう関係が垣間見える。また、家族や近所の方々頻りに事業所を訪問し、良好な関係を築くことができている。1ヶ月に一回発行している「ほほえみ通信」では、事業所全体と各利用者の様子が分かるよう工夫しており、家族からの反応も大変良い。2ヶ月に一回実施している運営推進委員会では、全ての家族に案内を出し、多数の家族が参加している。地域との関係も良好で、地域密着型サービスとして更なる地域との関係作りを期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念を作り掲示しているが、共有し実践するには至っていない。	法人の理念と共に、事業所独自の理念も掲げ、ユニット会議等で職員への周知を行っている。	事業所の理念として、グループホームの社会的役割を再度確認し、理念が日々の介護の実践につながることを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の春の一斉水路清掃に参加している。 ・運営推進会議にはほぼ毎回、民生委員の参加がある。	散歩の際には、近所の方々と井戸端会議をしたり、事業所の近くから入居された方のご近所さんが、よく訪問して下さる。秋祭りの際には、地域のおみこしが事業所まで来てくれて、利用者を楽しむことが出来た。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・オムツ研修会を外部に向けて行ったが、認知症に関する外へ向けての研修、周知活動は行っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一度の会議は行っており、ご家族、保険者、地域の方からの意見を伺い、改善にも取り組んでいる。	地域からは民生委員だけでなく、区長も参加している。会議の際の提案や要望により、制服の名前の取り扱い等について改善された実績もある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・毎月1度は地域包括支援センターに出向き近況など伝えている。また、高年福祉課の担当者には運営上の細々とした事の相談にのって頂いている。	地域包括支援センターに、事業所が作成している「ほほえみ通信」を持って、近況等を報告している。また、開設1年ということもあり、高年福祉課の担当者と運営手続き等について話し合う機会は多い。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修を通して「身体拘束をしない取り組み」について周知に努めているが、玄関の施錠に於いてはスタッフ人員や入居者の現況からやむを得ず行っている状況にある。	身体拘束について研修を行い、職員間に周知している。玄関の施錠については、出入りがチャイムで分かるようになっており、夜間、土日及び職員が対応できない状況の時のみ施錠している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年間研修のプログラムに「虐待防止」について説いている。また、ニュースで虐待報道があるたび、ミーティング等でその背景や心理について説明している。	入浴時にさりげなく身体状況を確認し、虐待につながらないような取り組みを行っている。また、ニュースなどで虐待の報道があった時には、当事業所での場面を具体的に想定し、振り返りを行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業、成年後見制度ともに学ぶ機会を設けられていない。	現在、利用者や対象者がいないため、日常生活自立支援事業及び成年後見制度について学ぶ機会がない。現在のところ、法人としても研修は実施されていない。	今後、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用する入居者を想定し、また事業所が認知症の方や家族の地域資源としての役割を果たすためにも、これらの知識を持つことが望まれる。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の際には十二分に時間をとり、説明し、疑問があれば尋ねていただくように適宜声をかけて契約手続きを進めている。	契約の際には、分かりやすい言葉に気を配り、家族に不安や疑問点があれば、安心してもらえるような事例等を用いて説明している。また、契約の際には見学も充分にして頂き、納得頂けるよう努めている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会や電話、その他、管理者へ意見要望を頂いている。しかし外部者へ表せる機会はこちらから積極的には設けていない。	運営推進委員会には、全ての家族に案内を出しており、出席された方にはその場で意見や要望を伺うことができる。開設当初はあまり意見も出なかったが、次第に運営に関して意見や要望が出るようになってきた。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員が意見を言いやすい環境づくりに努めている。また、管理者は反映出来る様に努めている。	管理者は、自分の仕事がある場合でも、職員の意見を聞く機会を優先するよう努め、意見や提案をしやすい雰囲気作りを行っている。またユニット会議と全体会議で出された職員の意見や提案が反映された事例も多い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・開所一年を契機に、代表者は管理者や職員に対し個人面談を設け、より良い環境づくりに努めている最中である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各々のステージに合わせた研修システムが出来ており、それに従って研修を受けている。また、介護支援専門員研修など外部研修にも参加できる体制である		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の有料老人ホームとの交流は僅かだがある。他法人の施設との交流は無い現状である。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居当初の不安や孤独が和らぐよう、努めて話しかけ傾聴できるように心がけている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談の段階から初回ケアプラン作成、サービス提供開始時、とお困りの事、要望を重点的にお聞きし、サービスに反映するよう努めている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・「他のサービス利用」については入居相談を頂いた際に、状況を鑑みながら提示する事はある。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ADLの高い人には様々な場面で共同作業が叶えられているが、半数は介護される一方の立場になってしまっている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・支援の方向性は家族と共に考え話し合い決定している。また、ご家族でないと果たせない支援に関しては、依頼し、行って頂いている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・「面会がしやすい環境づくり」に努めており、家族や馴染みの方の面会はかなっている。ただし、外出が中々かなわず、「場所」との関係はかなえられていない。	家族や友達、利用者の近所の方などが頻繁に面会に訪れる。その際には職員も同席し、なじみの人や場所についての聞き取りも行っている。協力的な家族の場合は、なじみの美容院に行ったり、買い物に行くこともある。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立しないよう、職員が間に入ったりする事で支援に努めている。ただし、攻撃的な言動に至ってしまう入居者に対しては、中々そのフォローがかなっていない。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・特養に転居された方へは、先方の看護師に随時情報提供を行っている。老健へ転居された方へは関係性が現在途切れてしまっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意向や、その確認が困難な場合には家族の意向を聞き、ケアプランに反映し、サービスの提供を行っている。	センター方式を利用し、利用者の希望や意向を把握している。また利用者の本音をゆっくり聞かせてもらえるように、話を聞く時間や話相手を工夫するなどの取り組みを行っている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居に際して、ご家族に入居者本人の個人史、病歴、経歴、人物関連など聴取、また協力依頼をしている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日一日の様子を確認し、日々変わっていく入居者の心身の状態把握に努め、ケアに反映している。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・関係者から意見を聞き、ケアプランが現状とかけはなれないよう努めている。	日頃のかかわりの中で、本人の思いや意見を聞きだせるよう努めている。職員間では、サービス担当者会議において、職員の意見を積極的に取り入れ、介護計画に反映している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録は適っているが、職員間での共有が不十分である。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・既存のサービスから踏み出す事は出来ていない。今までのサービスの中で当たり障りの無いサービスの提供に留まっている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源と当グループホーム入居者とを結び付けられていない現状である。安全は適えられても豊かな暮らしは提供できていない。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望される方には提携医に定期的な往診をして頂き、従来からのかかりつけ医を希望の方には引き続きかかりつけ医に診ていただいている。受診が必要と思われる際には救急外来への対応も、素早い治療が適うよう支援している。	提携医の定期的な往診に加え、何かあれば、随時提携医からの指示及び往診を受けることができる。従来からのかかりつけ医を希望している利用者についても、医師へ書面で情報提供などを行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師、訪問看護師が居ない現状で、定期的な往診の他に、気になることがあれば医師に相談したり、ご家族に受診の相談を行っている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者との関係作りは行っていないが、入院に際しての情報提供は行っている。	入退院時のカンファレンス等は、基本的に家族と病院が中心に行っているが、病院のソーシャルワーカーとの連絡や情報提供は行っている。入院時には、積極的に見舞い、様子を伺うようにしている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・開所一年、満床になって半年であり、重度化、終末期を話し合う機会がなかった。医療依存度が高くなった場合などの想定については、入居相談時に説明している。	法人の方針としては、看取りまで行うことになっているが、医療依存度が高くなり、対応できないこともあるので、入居時及び、利用者の状態に応じて、段階的に家族と話し合う場を設けたケースもある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当、初期対応の訓練が行えていない。したがって実践能力も身につけられていない。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防訓練を行っているが、地域との協力体制が築けていない。	年2回の消防訓練に加え、災害時の避難場所を現地確認したり、近所の方に災害時の聞き取りを行ったが、地域との協働および職員間への周知が充分とはいえない。	火災だけでなく、地震や水害等にも対応できる様、地域との連絡・協力体制を確立するとともに、全ての職員が災害時に対応できる様に周知することが望まれる。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが適っている職員とそうでない職員がいる現状である。	接遇や認知症の方の心理等について研修を行っている。言葉かけや対応が不適切な職員に対してはその都度注意し、職員に余裕がなくなっている時は、管理者が代わってケアし、各職員の振り返りを促す工夫もしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・努めて働きかける事が適っていない。訴えられる人は訴えるが、言葉に出せない人は言えない状態も見受けられる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員都合、時間割で動いている現状であり、希望を聞いて一日を過ごす事が出来ていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・持参された衣服をローテーションのように着用して頂いており、自身で判断できる方以外は支援が適っていない。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理、準備が可能な方は限られているが、分担したり一緒にしたりしながら準備、片付けを行っている。	可能な利用者は一緒に準備や片付けを行っている。また、事業所にある畑で利用者が作った、自家製の野菜を使ったり、誕生日には利用者の好きな食べ物を聞いて、全員でお祝いをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食べる量、栄養バランスなど確保出来ているが、水分摂取に拒否的な方々に対して、摂取量が適うような工夫に欠けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・定時の口腔ケアを行っているが、拒否があったり、理解が適わない時など、必ずしも行えていない状態である。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・オムツ使用者は居ないが、紙パンツ使用者は多い。布パンツの使用で失敗したときの入居者の自責の念、悲嘆を考えると、必ずしも紙パンツが悪い、とは考えていない。且つ、トイレでの排泄は第一に考えている。	布パンツから紙パンツに代えたことで、本人の生活が改善したケースもあり、個々の利用者に沿った支援を目指している。排泄自立に向け、職員間や家族で率直に話し合いができる関係づくりにも努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食物繊維の多い食べ物の提供や、乳製品の多用を心がけているが、服薬に頼らざるを得ない方々もおられる。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・概ね、こちらのタイムスケジュールにあわせた入浴になってしまっている。	利用者の中で、少ない方で週2回、多い方で週4回の入浴となっている。個々の生活歴に合わせた時間帯で入浴を実施したいと考えているが、職員の配置などの関係で叶わないこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中であっても様子を見ながら居室ベッドでの臥床を促し休憩していただく、和室で横になって休んでいただくなど行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者は把握しているが、職員はその副作用や用法などには完全には把握できていない。ただし、薬の変更があった際には注意して観察すべき点を指示している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、菜園作業、趣味(囲碁・将棋や、大正琴など)の機会を設けている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・天候の良い日には近隣の散歩に出かけられるよう努めているが、希望に応じられるのは限られた方のみになっている。	法人の方針で、事業所職員による車両の運転が出来ないため、全ての方の希望を叶えるのは困難だが、家族との協力により外出される利用者もおられる。	事業所職員による外出支援が困難な状況であっても、法人の経営理念である、豊かな人間生活の向上の実現のために、家族や地域の人々と協力しながら、利用者が外出できる機会を増大されることを期待したい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・当法人の規定により、お金を入居者個人が保持する事は出来ない事になっている。</p>		
51			<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・年賀状を書くなどの行事は行ったが、日常の中で手紙を書く、電話の支援をする、と言う事は出来ていない。</p>		
52	(23)		<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・季節感を演出するには心がけており、不快感を軽減できるように努めているが、時折、BGMの音量が大きすぎたり、職員の声かけの音量が必要以上に大きく、不快感を与えていると思われる、適宜、指導をしている状況にある。</p>	<p>一月毎の季節に合った飾り付けがある。また利用者と一緒に花を生けることもある。利用者が混乱しないように、トイレの前の床やドアの下部に目印をつけるなどの工夫も行っている。</p>	
53			<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・建物の構造上、独りになれる場所が、廊下の突き当たり、事務所、のみである。ただそこで穏やかに過ごされる入居者の姿は多々見られている。</p>		
54	(24)		<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・必要最低限の物で構成されており、居室の工夫は当ユニットで適えられていない部分の大きな一つである。</p>	<p>使い慣れたものや好みのものの持ち込みは自由であるが、各居室はシンプルにまとめられている。</p>	
55			<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・安全には常に気を配っているが、「できること」「わかること」を必ずしも生かしてはいない。</p>		